

共同運営部門：中央手術室

—関係部署—

手術室看護師	麻酔科
外科系各科	腎臓内科
臨床工学技士	

—概要—

中央手術室は4階に手術室6室を有し、中央手術部運営委員会が管理、運営している。主な関係部署としては、手術室看護師、麻酔科、手術を行う外科系各科、腎臓内科（シャント関連の手術）、臨床工学技士があげられ、場合によっては臨床検査技師、薬剤師、助産師、事務、通訳等の職種や、小児科、循環器内科などの医師とも協働している。2015年度は、中央手術部運営委員会委員長の小林麻酔科部長が中央手術室長を務めた。手術室看護師は、藤原看護師長（兼中央滅菌室長）、山下副看護師長、桑原副看護師長、濱上副看護師長を含め27名からなり、予定、緊急手術の全てに対応している。

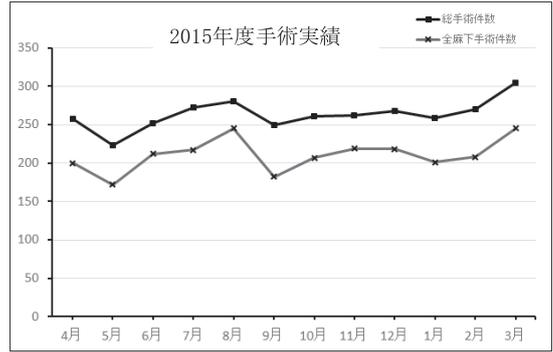
手術室は6室のうち5室を予定手術用とし、原則として1室は緊急手術用に空けている。当センターには、泉州広域母子医療センター、心臓センター、脳神経センター、脊椎センター、人工関節センターなどが存在し、緊急度の極めて高い緊急手術が頻繁に発生するため、このような措置をとっている。

2015年度の予定手術枠は、以下の通りであった。

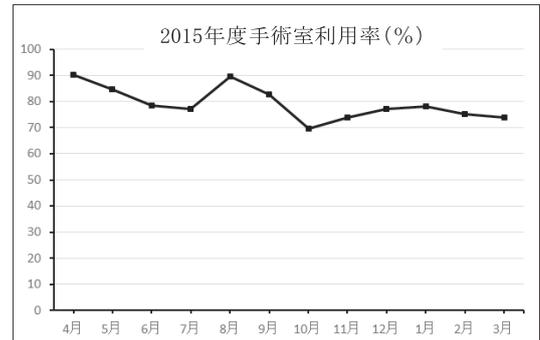
	月	火	水	木	金
1	外科	呼吸器外科(第2・4外科)	外科	整形外科	心外
2	外科	口腔外科	外科	形成外科	脳外科 産科
3	整形外科	脳外科	泌尿器科	外科	形成外科(第1・3週) 泌尿器科(第2・4・5週)
4	心臓血管外科	耳鼻科	外科 泌尿器科(第2週)	産科	心臓血管外科
5	耳鼻咽喉科 産科	整形外科 形成外科	耳鼻科	口腔外科 耳鼻科(第4週)	耳鼻科
					呼吸器外科(第2・4外科) 腎内

—実績—

2015年度の月別総手術件数および全身麻酔下手術件数を次に示す。年間総手術件数は3,160件、全身麻酔下手術は2,526件であった。眼科常勤医が不在となり、眼科手術がなくなったことで、総手術件数が減少した。その手術枠を他科で有効利用したことにより、全身麻酔下の手術はむしろ増加傾向となった。



2015年度の月別手術室利用率を次に示す。年間の平均利用率は79.2%であった。



2015年度より、待機患者の多い整形外科枠を、月・木曜の20:00まで延長し、手術数を増加させるとともに、待機患者の減少に努めた。そのため看護師数は27名に増員され、6月から2交替制が導入された。麻酔科医は月・木曜の待機担当者がフレックス制出勤となり、20時までの手術枠に無理なく対応できるようになった。

2015年度より、血液内科が手術室での骨髓採取を再開した。血縁者間の採取から開始し、非血縁者間骨髓採取施設認定を再取得していく予定である。

—今年度の成果と反省点—

年間手術数増加という社会・病院のニーズに応えるべく、手術室の稼働時間を延ばし、看護師の2交替制、麻酔科医のフレックス制を導入したことは、今年度の成果と考えている。一方、平日日勤帯で手術室稼働率の低い日が現在も散在しており、そのような空きをいかに減らすかが今後の課題である。

—来年度への抱負—

手術数を増やそうとするあまり、予定手術の無理な詰め込みが頻発するようになった。度を過ぎた勤務状況は、手術室スタッフの疲弊、システムの破綻へつながりかねない。無理のない形で目標を達成していくことが、今後重要になると考えている。